内頸静脈血栓症の一症例

酒井 仁・川上 千之*

A Case of Internal Jugular Vein Thrombosis

Masashi Sakai and Senshi Kawakami

(Sanyudo Hospital)

An unusual case of internal jugular vein thrombosis is reported. A 73-year-old woman complained of swelling and pain in the left neck. Computed tomography with contrast enhancement and angiography demonstrated the characteristic features of the left internal jugular vein thrombosis. The patient's neck swelling subsided after antibiotic therapy.

The literature of internal jugular vein thrombosis was reviewed.

Key words: internal jugular vein, thrombosis, computed tomography, angiography

はじめに

静脈血栓症は下肢に最も高頻度に認められるが、頭頸部領域での静脈血栓症は非常に珍しい¹⁾。今回明らかな原因を有しない内頸静脈血栓症の1症例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

症例：73歳，女性。

主訴：左頸部痛及び後頭部痛。

既往歴：高血圧，骨粗鬆症と右突発性難聴。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：平成元年12月20日頃咳や鼻閉が出現し，12月24日午後3時頃急に左頸部から後頭部にかけて疼痛が出現した。12月26日当院内科と脳外科を受診し，頭部CTなどで特に異常所見がなかったため保存的に治療した。しかし疼痛が増強し，さらに経口摂取が困難になったため，翌年1月4日当科を受診し入院となった。

現症：左上頸部が軽度腫脹し，左頸部から後

頭部にかけて著明な圧痛を認めた。咽喉頭及び耳には異常所見を認めなかった。

臨床検査所見：白血球が17800，血沈が97/

図1 頸部単純CT (矢印は左内頸静脈を示す)

133, CRP が35.4, BUN は51と尿アセトンが3+で, その他特に異常所見は認められなかった.

CT: 単純 CTでは拡張した左内頸静脈が認められ, 静脈壁の density はやや高くなっていた (図1). 造影 CT 像では左内頸静脈は拡張し, 静脈壁は enhance されたが, その内部は

enhance されない low-density を示し, 血栓性静脈炎の所見と考えられた (図2). さらに両側の下顎後静脈にも同様の所見が認められ, 背筋部や耳下腺部に認められる点状の高濃度像は側副血行路と考えられた (図3). 血栓は CT 上内頸静脈と鎖骨下静脈の合流点より上方に存在すると思われた.

図2 頸部造影 CT (矢印は左内頸静脈を示す)

図4 左頸動脈造影の静脈相の正面 (矢印は左横静脈洞の閉塞部位を示す)

図3 頸部造影 CT

図5 左頸動脈造影の静脈相の側面 (矢印は左横静脈洞の閉塞部位を示す)

血管造影：左頸動脈造影正面及び側面の静脈相では、左横静脈洞の途中より閉鎖し、左S状静脈洞や左内頸静脈は造影されなかった(図4, 5)。

経過：入院時著明な炎症と脱水の所見が認められたので、抗生物質（セフトリアキソンを2gとクリンダマイシンを1.2g、その後フロモキシセフを4g）の投与と十分な補液を行った。

1月7日左外転神経麻痺が出現したため頭部CTを実施したが、脑梗塞や出血などの異常所見は認められなかった。その後前述の頸部CTによって左内頸静脈血栓症と診断できたが、炎症所見は依然として強く、また発症より時間も相当経過し側副血行路を認めたので、抗凝固療法は行わずに同様の治療を続けた。約1カ月間の抗生物質の投与によって疼痛、頸部腫脹や外転神経麻痺は消失し、3月3日退院した。その後外来にて経過観察しているが、約1年経過した現在も経過良好である。

考 察

1. 原因について

血栓はうっ血、血液凝固能亢進や内膜損傷が影響しあって形成される²⁾³⁾。内頸静脈血栓症の原因として感染、中心静脈カテーテル、悪性腫瘍、血腫、外傷、静脈注射の乱用や経口避妊薬などが報告されている^{4)~6)}が、抗生物質の普及前はその多くは感染によるものであった⁷⁾。特に最近中心静脈カテーテルが原因と考えられる例が比較的多く報告されており^{4)~6)8)}、現代の高度医療を顧みてこのような合併症を念頭に入れておくことは重要と考えられた。また悪性腫瘍が原因になる場合も比較的多く⁵⁾⁶⁾⁸⁾、特に血栓症が悪性腫瘍の初期症状であった⁶⁾という報告もあるので、全身の十分な検索が必要と考えられた。本症例においては炎症所見が強く認められたが、血栓症の明らかな原因は認められなかった。さらに著しい脱水が病状を悪化させたものと考えられた。本症例のように明らかな原因が認められない内頸静脈血栓症例も報告されている³⁾が、原因の究明には全力を注ぐ必要

がある。

2. 診断について

内頸静脈血栓症を早期にかつ正確に診断をつけることは困難⁹⁾で、画像診断の役割は大きい。検査方法としてCT検査、エコー検査、MRIや血管造影などがあるが、CTやエコーは迅速、安全かつ非侵襲的に検査でき、有用な情報を得ることができる⁴⁾⁶⁾¹⁰⁾。単純CTでの静脈血栓症像は静脈の拡張で、造影CTでは静脈腔の低濃度と静脈壁の濃染であり^{1)3)~5)9)10)}、当科の症例においても同様の所見を呈した。しかし発生早期においては血栓のCT値が高く、造影CTで濃染される他の血管腔と比べて濃度差がみられなくなる場合は、診断に苦慮することがある⁴⁾⁵⁾¹⁰⁾。エコー所見の特徴はエコーの増強、拍動の欠如、静脈の拡張などである²⁾。しかしエコーは疼痛が強い時には検査不可能で、また検査範囲が限られていることが欠点である⁴⁾。本症例においても疼痛のため実施できなかった。MRIに関しての報告¹⁰⁾は少ないが、一般的に初期の血栓はT₂強調像で低信号となり、亜急性期では血栓はまずT₁強調像で次にT₂強調像で高信号を示すようになる¹¹⁾。このようにMRIで信号強度の経時的変化を適確にとらえれば、病態を把握するのに有用と考えられる。血管造影は有用な検査ではあるが、血栓形成の増大や塞栓の併発の危険性があるため、慎重に検査する必要がある。本症例では重篤な合併症を引き起こさずに、血栓の部位をさらに正確に診断できた点から考えて有用であった。

3. 治療について

内頸静脈血栓症の治療としては、抗生物質や抗凝固剤の投与による内科的治療が主に行われている³⁾⁸⁾。脳出血などの合併症がある場合は抗凝固療法を実施できないが、抗凝固療法を行わなくても治癒したという報告⁵⁾⁸⁾⁹⁾があり、必ずしも抗凝固療法は必要ではないと考えられた。抗生物質が普及する前は結紮や切断などの外科的治療が行われていたが、有効な結果は得られていない。本症例は炎症所見が強かったため、

また発症から診断までに相当時間が経過し、十分な側副血行路が認められたことから抗凝固療法を実施せずに抗生物質の投与のみを行ったが、十分な治療効果が得られた。静脈血栓症における重篤な合併症としては肺塞栓症があるので、早期に診断し適確に治療することが大切と考えられた。

ま と め

73歳女性で明らかな原因を有しない内頸静脈血栓症の1症例を経験した。診断に関してはCT及び血管造影が有用で、内科的治療にて改善し、経過良好であった。また内頸静脈血栓症について若干の文献的考察を行った。

文 献

- 1) Wen BC and Dolan KD : Computed tomography of internal jugular vein thrombosis. *Ann Otol Rhinol Laryngol* **98** : 318~319, 1989.
- 2) 森岡恭彦, 間辺俊一郎, 大橋重信, 他 : 静脈血栓症. *治療* **68** : 1505~1512, 1986.
- 3) Kennedy KS, Tami TA, Friedman JC, et al : Spontaneous thrombosis of the internal jugular vein. *Ann Otol Rhinol Laryngol* **96** : 222~224, 1987.
- 4) Giyanani VL, Mirfakhraee M, Gerlock AJ, et al : Computed tomography of internal jugular vein thrombosis. *J Comput Tomogr* **9** : 33~37, 1985.
- 5) Patel S and Brennan J : Diagnosis of internal jugular vein thrombosis by computed tomography. *J Comput Assist Tomogr* **5** : 197~200, 1981.
- 6) Chowdhury K, Bloom J, Black MJ, et al : Spontaneous and nonspontaneous internal jugular vein thrombosis. *Head Neck* **12** : 168~173, 1990.
- 7) Sanders RV, Kirkpatrick MB, Dacso CC, et al : Suppurative thrombophlebitis of the internal jugular vein; report of a case and review of the literature. *Ala J Med Sci* **23** : 92~95, 1986.
- 8) McNeill R : Internal jugular vein thrombosis. *Head Neck Surg* **3** : 247~250, 1981.
- 9) Albertyn LE and Alcock MK : Diagnosis of internal jugular vein thrombosis. *Radiology* **162** : 505~508, 1987.
- 10) 廣橋伸治, 吉川公彦, 吉矢和彦, 他 : 内頸静脈血栓性静脈炎の1例. *臨放* **32** : 431~434, 1987.
- 11) 安里令人, 生天目英比古 : 脳血管障害のMRI診断. 脳脊髄MRI診断 (小西淳二, 安里令人編). 83~120頁, 医学書院, 東京, 1989.

(別刷請求先: 酒井 仁
〒992 米沢市中央6-1-219
三友堂病院耳鼻咽喉科)